

---

# 昔語り

川崎ゆきお

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

昔語り

### 【ZPDF】

NO136M

### 【作者名】

川崎ゆきお

### 【あらすじ】

沢田は、レコーダーをオンにした。既に一週間分の記録が入っていた。

「さて、どこまで話したかな？」

「昨日のお話の続きで結構ですから、お願ひします」

「ああ、だから、どこまで話したかな？」

「村に地蔵が来たところまでです」

沢田は、レコーダーをオンにした。既に一週間分の記録が入っていた。

「それは、わしが産まれる遠い昔の話だからな。わしも聞いただけの話だよ」

「結構です」

「地蔵送りでな。隣の下山田から地蔵が来たんじやよ」

「続けてください」

「その地蔵は神輿に乗つておつてな」

「地蔵は仏でしょ。地蔵菩薩。神輿は神様では？」

大場老人はむつとした。

「昔はその区別が曖昧でな。まあ、輿のようなものに乗せて担いで来たんじやよ。先頭は下山田の名主さんでな。羽織り袴でな……で、その後ろを大勢の村人が揃いの法被を着ての……」

沢田は黙つて聞いている。

「地蔵送りは賑やかだつたらしい。祭り騒ぎじや。届けてくれた村人に、御馳走をふるまつての」

「大場さんはそれをどなたからお聞きになりました？」

「おふくろから子供のころに聞いた」

「江戸時代の話だと思うのですが、それが語り継がれているわけですね」

「そうなるかな」

「で、地蔵は？」

「地蔵は村で一泊し、隣の北山田へ送ったとか。わしが聞いたのは、

そこまでじや。こんな話が何ぞ役に立つかな?」

「昔語り本として編集し、郷土の歴史として出版します」

「山から天狗が降りて来た話もか?」

「一週間前の、あのお話も、非常によかつたですよ」

「ギャラはいつ入る?」

「はあ?」

「とぼけないで」

「ギャラと言いますと」

「本になるんだろう?」

「そうですが、予算が」

「それは、そつちの勝手な理屈じや」

「沢田はレコードをオフにした」

「わしの話は無料か? わしの働きはボランティアか?」

「はい」

大場老人はレコードを庭石にぶちつけた。

了

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0136m/>

---

昔語り

2010年12月25日20時49分発行